

瀬戸内・四国地域の 観光地域創生プロジェクト

せとうち観光専門職短期大学
安村 克己 学長



善通寺市
辻村 修 市長



【内田】

こんにちは。せとうち観光専門職短期大学の学長対談を始めたいと思います。私はファシリテーターを務めます、観光振興学科長の内田と申します。よろしくお願ひいたします。

私の隣が本学の安村克己学長です。安村学長は日本の観光学のトップランナーとして、第一線でご活躍されております。本日はよろしくお願ひいたします。学長から一言、よろしくお願ひいたします。

【安村】

本日は善通寺市長の辻村様をゲストにお迎えし、「観光振興と地域振興」をメインテーマにお話を伺いたいと思います。善通寺市は伝統と文化、そして優れた自然に恵まれ、様々な産業にも力を入れていらっしゃいます。特に辻村市長におかれましては、タウンミーティングで市民の方々の意見を広くお聞きになり、精力的に市政を進めていらっしゃるということで、今日はそのようなお話をぜひ伺いたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

【辻村】

よろしくお願ひいたします。

【内田】

本日の対談は善通寺市長の辻村修様です。よろしくお願ひいたします。

では辻村市長からご挨拶をお願ひいたします。

【辻村】

善通寺市長の辻村と申します。市長になり今年の5月で4年目、1期目でございます。

ポストコロナの時代になり人口減少が加速しております。71年前に善通寺市ができた時には人口が3万8000人ほどでしたが、昨年の12月には3万人を割ってしまい、非常に人口減少が加速しています。特に出生率が非常に下がっており、将来の人口減少、少子高齢化に対応したまちづくりをどう進めていくか、まさに今、奮闘中でございます。

ポストコロナ時代に高松空港のインバウンド客が増え、香川県内は瀬戸内国際芸術祭などで大変賑わっています。善通寺も、総本山善通寺には毎年80万人、おそらく香川県内では2番目ぐらいの入り込み数があるのですが、経済的な波及効果がほとんどないのが現状です。本日は、本当に安村学長のお話を楽しみにしてまいりましたので、どうぞよろしくお願ひいたします。

【安村】

よろしくお願ひします。

【内田】

善通寺市は善通寺の門前町として、香川県内でも一番古い歴史を持つ大きな町だったわけですが、その歴史や文化について辻村市長から簡単にご説明いただけますでしょうか。

【辻村】

善通寺はよく「お寺と自衛隊の町」と言われます。お寺の町は、今お話しいただいたように門前町として栄えたわけですが、古墳時代から佐伯一族という豪族がこの辺りを治めていました。現在でも400近い古墳が山手に点在しています。1500年ぐらい前、天皇陛下にお子様がいらっしゃらなくなり、5代ほど遡って仁徳天皇の弟まで遡るということがあり、その時に国内の争いが起きました。その九州平定を手伝ったのが佐伯一族だと言われています。

その頃、天皇家と親しくなり力をつけて京都とも縁ができ、その中で留学し、優秀だった佐伯一族の一人が弘法大師空海だったというわけです。

善通寺というお寺の名前は、市の名前でもあります弘法大師空海の父親の名前です。弘法大師空海の父親は佐伯善通（さえき よしみち）といい、その父の名前をつけたお寺を建立したわけです。

弘法大師空海の偉業はたくさんありますが、それ以外にも、現在までに「大師号」という称号を天皇から授かるわけですが、「大師号」を授かった高僧は25名います。そのうちの5名が香川県出身で、さらにそのうちの4名は弘法大師空海の親戚だという、非常に優れた一族だったと言われています。

こういった全国の真言宗が伝わる中で、善通寺は「生まれたところ」として、特別な存在のお寺です。それを中心にお寺の周辺は門前町となっていたのですが、実際は江戸時代から発展したわけではありません。それはあくまで宗教的な聖地としてありました。実際に善通寺が町として発展したのは、1897年にこの地に陸軍の第11師団ができてからです。その頃、市役所があるあたりから駅前にかけて、陸軍の用地でした。その周辺の一部門前町だったところが、軍人の日々の生活を支える商店街として発展しました。

さらに、香川県では一番最初に丸亀と多度津、琴平の間に鉄道ができるわけですが、その結節点にもなったことで明治時代から昭和初期にかけては、非常に賑わっていました。これが善通寺のこれまでの発展の歴史であります。

【内田】

ありがとうございます。私は地理学者なのですが、善通寺市は香川県内で中心市街地が一番大きいように思います。おそらく軍隊の時代に整備されたことが影響しているのでしょうか。

今回、辻村市長にお話を伺うにあたり、市長が積極的に市民の方々と話され、まちづくりに活かしていると伺っております。最初にタウンミーティングを始めた経緯ややってみてどうだったかについてご紹介ください。

【辻村】

3年前に市長になり、その時の選挙公約に「タウンミーティングをやります」ということを掲げていました。これまでの3年ちょっとで、16回ほど行いました。

当初は、市民の方に「言



いたいことがある人は集まってください」という形で、テーマを決めずに始め

ようと思ったのですが、まだコロナの影響が残っており、それができませんでした。そこでテーマを絞り、人数も10人以内、1時間程度でディスカッションをするという形で始めました。結局、最初の構想とは少し違って、その形で16回ほど続けてきて、様々な課題がありますが、その課題について一つずつ皆さんと議論し、それを施策に反映させていっています。

【内田】

ありがとうございます。住民と観光、まちづくりというテーマで、積極的に市民と関わっておられるとのことですが、安村学長からそのあたりについてご説明いただけますか？

【安村】

私も辻村市長のタウンミーティングを拝見して、大変素晴らしいなと思いました。テーマは市長が選ばれるのですね？

【辻村】

私が選んで参加者を募っていただいている。

【安村】

そうですか。素晴らしいです。

まず私が感銘を受けたのは、市長が市民の声、つまり市政への参画や参加を大変重視されていることです。どこの市でもなかなか手付かずな部分が多いと思うのですが、そういったところに市長がテーマを設定され、市民の方が集まって積極的に意見を述べているということに大変感銘を受けました。

【辻村】

そうですね。いや、普通かなと思っていたのですが。

【安村】

それは辻村市長が普通だと思ってらっしゃるだけかもしれません。私が思うのは、先ほど「観光まちづくり」という言葉が出ましたが、まず市民が自分の地域や町をどう変えていくかという意識が大変大切だと思います。それを辻村市長がなさっているタウンミーティングから感じました。

今後それをどう展開されるのか、お話を伺いたいと思うのですが、私が15回分を拝見し感じたことは、善通寺市の文化や伝統、そして先ほどお話にもあった歴史、つまり「善通寺と自衛隊」という非常に大きな市の資源、魅力ですね。そのほかにも様々な祭りや歴史、伝統があり、それを市民が背負っておられるということを感じました。

そこで辻村市長はそれをどう活かされていますか？

【辻村】

基本的に私が市長になりました、高松市などは民間企業が一生懸命まちおこしを、アイデアを持ってやってくれるわけですよね。お隣の琴平町も、今いろいろ新しい企画をやっていますが、あれはほとんど外の企業、県外の人が来てやっているんですよ。うまくいっているものも、そうでないものもありますが。しかし、善通寺にはホテルもほとんどないんですね。誰がそういう仕掛けをしてくれるかと言えば誰もいません。先ほど言ったように、お客様が来ていないわけではないんです。来ているのですが、それを活かせていない。

そうした中で、今、四国遍路が世界遺産になるという話があります。暫定リストに入っていたものがどんどん世界遺産になってしまい、事実上、残っているのはもう世界遺産にくつつくものばかりで、今ゼロになっているんです。しかし、ここ2年以内に暫定リストに一気に上がるのではないかと言われており、文化庁もそのような動きをしています。

その中で、いろいろ宿題が残されておりました。史跡にしても、現存するものの5割以上を整備しなさいとか、もう一つは、そういう機運を醸成しなさい、ということです。啓発活動もしていかなければならないわけです。何より最大のチャンスなのは、四国遍路が世界遺産に、仮に暫定リストに入る、あるいは世界遺産になれば、四国の中で一番恩恵があるのは善通寺ではないかと考えておきました、その時に企業とか、地元企業ならいいんですけど、よそから来た人がやるんではダメで、ぜひ今のうちから、そういう受け皿を市民の手でつくれないか、ということを考えています。

例えば、「世界遺産になった時にどういうまちづくりをしますか」「空き家・空き地対策をそういう時のために活かせませんか」そういった、結びつけられるようなタウンミーティングのテーマを選んでやっているわけです。

【安村】

素晴らしい発想ですね。私は観光まちづくりにずっと関心を持って10数年やってきましたが、やはり住民がその気になって、主導してやらなければいけないと同時にそれを自治体がどうサポートしていくかが非常に重要だと思います。その意味で繰り返しますが、住民を対象にしたこのミーティングが素晴らしいと思うんです。

辻村市長のおっしゃられたように、外部のデベロッパーなどを入れるのではなく、辻村市長も関わりながら住民が発想していくという点が素晴らしいと思います。その時に私が思い出すのは、大分県の平松守彦知事が、ずいぶん前です

が、80年代の中頃に「一村一品運動」を始めたことです。そのタウンミーティングのビデオを見せていただいて、大変感銘を受けたことがあります。

これがうまく発展すれば素晴らしいと思うのですが、私が拝見しただけでも、善通寺市の魅力、観光資源はまさに「観光」が「地域の光を見せる、見る」ものだと考えると、善通寺市は先ほどお話にあったように、宝の山のようなところだと思うのですが、あらためてそのあたりの活用について、具体的なアイデアがあればお聞かせいただけますか？

【辻村】

例えば父母ヶ浜とか、天空の鳥居のような「バズる」ものがいれば手っ取り早いのですが、残念ながらあまりないわけです。

では、どうするかというと、一つ一つ説明したら魅力あるもの、面白いものをどうやって知っていただくか、楽しんでいただくかということがテーマでございまして、2年ぐらい前から観光庁の補助金を使って、これは実際はうまくいかなかつたのですが、四国遍路、市内に五つの札所があるわけですね。その五つの札所で、単にお参りするだけでなく、「着地型観光」と言って、色々そこで体験していただく観光ができるかということで、お遍路さんや地元の人と相談しまして、面白いものがあるんですね。

金倉寺さんであれば、住職のお嬢さんが香道という、お香の匂いを鑑賞する芸道をしています。そこで香道を体験していただく。出釈迦寺の住職と副住職は、日展で書道に入選されている方で、書を体験していただく。その他にもヨガ、精進料理など、市内にそういうお寺と着地型観光に絡むものがたくさんございまして、そういうものを絡めて、新しい観光資源にならないかという試みを今しているところです。



【安村】

素晴らしいですね。きっと、そういうところにある色々な魅力、そこには伝統や歴史が張り付くように善通寺市にはあると思うんですけど、色々なストーリーがそれぞれの魅力にあって、そのストーリーが絡み合って、善通寺市ならではの一つの乗り物のようになると、本当に素晴らしいものができあがるだろうなという感想を持ちました。それがタウンミーティン

グで結びつく、一つのきっかけになっているのではないかと感じました。今、辻村市長のお話を伺っても、やはりこれから色々な善通寺市のストーリーがどんどん絡み合って出てくるかなという期待を抱かせていただきました。

【内田】

善通寺市は、善通寺や四国遍路の話で中世・近世のフェーズがあって、その下に近代のその軍都のフェーズがあって、それをうまく物語化すると私はすごく魅力的な町だと思っているのですが、そのあたりが点在するスポットはあるけど、なかなか繋がらないという感じでしょうか。

【辻村】

そうですね。色々あって、今年は4月27日の陸上自衛隊の記念行事に、ブルーインパルスを誘致したんですね。

善通寺市としては19年ぶりだったんです。香川県内には瀬戸大橋の開通記念行事の時に来ていましたが、その19年前に来た時は、2万人ぐらいしか見物に来なかつたんで、今回もそのくらいだろうということで段取りをしていたら、実際は7万人ぐらい押しかけて、香川県の西半分が渋滞してしまったという感じになって。

私は、てっきり渋滞の苦情をものすごく言われるかと思ったのですが、実際、市役所には3件しか苦情の電話がかかってこなかったんです。自衛隊には500件ぐらい苦情の電話がかかっていたそうなんですが。その3件も大した内容じゃなくて、それよりも圧倒的に「善通寺市もなんかやればできるじゃないか」「もっと何かやろうじゃないか」という機運が市民の中で高まって、大きな可能性を感じたわけです。

また、スーパーも、1軒撤退したところがあるのですが、そこにまた新しいところが入りまして、ここがすごく流行っているんですよね。

実は、数年前からコストコの誘致をしていたんですけど、足元を見られているみたいで色々条件を提示されるので諦めて切り替えたのですが、そこまで大きなものでなくとも、集客できるポテンシャルが善通寺には高いぞということ、今生懸命水面下で企業誘致をしているのですが、割とお話をたくさん来ているというのが実際でございます。

そういう観光面以外でも、一緒に善通寺のポテンシャルを上げていければと考えています。

【安村】

近隣の周辺地域も、ずいぶん観光振興や観光まちづくりに力を入れていると聞いていますが、そことの連携などはいかがでしょうか？

【辻村】

お隣の琴平町はまさに観光の地域でございます。しかし、あそこが経済効果があるかというと、善通寺市のお寺も一緒で、お寺や神社は賽銭や御籤、お守りで儲かっているけど、その周辺がそこまで儲かっているか



と言ったら、大きなホテルが独占していたりして、なかなかうまくいってない。さらに一番残念なパターンとしては、こんぴらさんに観光して、時間つぶしに善通寺市に寄って、道後温泉に泊まる、これが最悪のパターンで、これをどうにかしなければならないということで、この中讃地域でも皆さんと話しているんです。

色々なところを見て回りました。日本中、視察に行きました。

でも、こんな狭い地域に、瀬戸内の島々があって、瀬戸大橋があって、丸亀城があって、少林寺拳法があって、四国霊場があって、自衛隊があって、こんぴらさんがあって、ゴルフ場があって、これだけレジャー・観光が集中している地域は日本中にはないんですよね。でもこれがみんなバラバラなんです。

これをどうにか、季節に合わせてパッケージにできないかという議論を、中讃広域でしているところでございます。

【内田】

今のお話だと、善通寺で観光に滞在したお客様が、結局宿泊は道後温泉に行ってしまうということですね。

【辻村】

多いパターンは、やはり日本人、外国の人もそうですけど、大きな温泉に泊まりたいというニーズが高いんですね。それはもう、いかんともしがたいところがあるので。

私も旅行に行った時には、若干そういう考えがあったりしますので。そういうところはなかなか解消できないですが、どう対抗するのかということを考えなければならないのかなと。



【安村】

観光振興や地域振興を考える時に、地域の連携ということをよく言われるんですが、おっしゃっていた通り、やはり各地域で実力を蓄えて、それぞれに地域の魅力がありますから、まずそれを発揮できて、成果が

上がった上での連携だと私は思います。おそらく善通寺市も魅力があって、これほどの魅力があれば、「滞在してこの地にとどまって色々魅力を見ていきたい」という人の動きというのは必ず出てくると思うんです。そうすれば、宿泊施設というのも、どういう形になるか分かりませんが、大規模なものか、中規模なものか、小規模なものか、色々な形態があると思うんですけど、善通寺に合ったその宿泊施設の形態というのは当然出てくると思います。

今までのお話を伺っていると、辻村市長は「持続可能」ということを念頭に置いてやっておられると思います。それが本当に実現できるのは善通寺ではないか、という風に感じました。

【内田】

私の個人的な意見ですが、善通寺市には四国学院大学があるので、「学園都市」というか「学生さんの町、勉強の町」という側面もあると思います。もちろん空海が修行して勉強した場所でもありますので、学都、学問の町のようなイメージです。

【辻村】

空海が勉強したのは、京都の大学や中国でもありましたので、なかなかそのあたりを関連付けるのは難しいのですが、今は宇多津町にある香川短期大学はかつては善通寺市にあり、昔は学園都市とも言われていたんです。高校も香川県立善通寺第一高校と私立の尽誠学園高校の2校があって。でも今はもう、善通寺第一高校も人数が減りましたし、四国学院大学も1学年200人ぐらいしかいないんです。4学年で800人ぐらい、すごく減りましたので、あまり学生の町とも言えないんです。

ところが、実は若い人は多いんです。高校卒業時点で、善通寺市の18歳の人口は250人しかいないのですが、二十歳の集いには450人ぐらいいるという、自衛隊や看護学校、四国学院大学などが要因で。これは多分皆、住民票を全員

移していないので、もっといるんじゃないかなと思うんですけど。若い人がたくさんいるんですよね。多分、香川県の他の市にはそういうのがないと思うんです。ですが、そういった若い人たちが家にこもってゲームをする、ほとんど飲みにも行かない、お金を使わない、というのが今の時代でして。非常に厳しいなと。

今は自衛隊も、若い人は30歳ぐらいになると各地に散らばっていくんです。善通寺市の自衛隊は研修したり、大災害があったところに応援に行くチームの第15即応機動連隊というのがあって、それが主になっています。

せっかくいる若い人たちを活用して何かできないかなというのは、模索しているところです。

【安村】

そうですね。なんとかしたいですね。

【内田】

今、若者の話が出たので、辻村市長に色々お話を伺いたいのですが、辻村市長ご自身は大学進学で香川県外に出ていますが、戻ってこようと思った、そのきっかけはなんですか。

【辻村】

家業が建設業をしておりましたので、帰ってこなければならぬだろうと。4人兄妹で男一人だったので。

【内田】

帰ってこられて、県議会議員もされたわけですが、政治の世界に入るきっかけは何だったのでしょうか。

【辻村】

それもあり意識はしていなかったんです。

父が県議会議員をしていて、63歳で亡くなつたんです。それで私は選挙に出ないと言っていたんですけど、父の後援会の人たちが「最近は2、3年の猶予がある」「知事選挙の時まで行われない」と言つて。すぐだったら立候補していなかつたと思うんですけど、2、3年猶予があつて、次の後継をなかなかうまく決められずに「お前どうにかしろ」と説得されて、やつたのが最初のきっかけでした。

【内田】

大学生の頃は家業を継ぐという意識があつたと思うのですが、地域のリーダーシップを取っていく、地域のために頑張るという意識は持つていなかつたということですね。

【辻村】

地方自治のために頑張るつもりでは、帰ってきてなかったですね。

【安村】

辻村市長の想いとして、善通寺市に対する平たく言えば「郷土愛」みたいなものは？

【辻村】

もちろん大好きな町です。

【安村】

それで「じゃあ帰ってきて、やってやろう」というお気持ちだったんですね。

【辻村】

今の若い人も、何かきっかけがないとなかなか帰ってこないのでしょうか。タウンミーティングの中でも話したのですが、伝統文化をどうするかということがあって「獅子組」があるから戻ってくる人が結構いるんですよね。獅子舞をしたいから、あまり遠いところには就職せず、神戸あたりですぐに戻ってこれるように。ましてやこの辺で就職してやりたいと。そういう魅力づくりも研究しているところです。

【安村】

私もタウンミーティングの映像の中で印象的だったのが、獅子舞を継承されている地区があるんですか。

【辻村】

善通寺市内に 80 組ほどあったのが、今では 60 組ぐらいですが、やっている人はみんな熱いんですよ。

【内田】

香川県は獅子舞にすごく熱心な地域で、特に善通寺市は熱心ですね。

【辻村】

でも残念なことに、太鼓打ちとか鐘打ちは、子どもがするのですが、半分ぐらいは女の子なので、大丈夫かなという。獅子舞は女の子には重く、継承がどうなるのかなと。でも結構女の子でも若い子はそういうのに魅力を感じていて。昔は、特に自衛隊があるので、善通寺市の女の子と自衛隊員さんが結婚すると、他所に取られるみたいなことを言われたんですけど、最近は逆で女の子の実家の近所に家を建ててくれるというパターンの方が多いですね。どちらかというと男の子が結婚を機に来てくれますね。

【安村】

伝統芸能とかそういう伝統の獅子舞もそうだと思うのですが、その地域だけで

守り切れなくて、外からも人が移り住んで来て、継承しているというのはありますね。

【辻村】

善通寺市のような小さな町でも、この中心部の獅子組は善通寺市外の人もリクルートしてくるんですよ。でも周辺部の人はそこに住んでいても、昔から住んでいる人しか入れない地域もあって、それぞれでいろいろなんです。

【安村】

よく聞きますよね。今まで囮んでしまっていた。でもやはり頑固に守られているところもある。いいですね。

【内田】

引き続き若者の話になるのですが、地域社会の中で若者が担う役割は、辻村市長がおっしゃられたようにたくさんあると思うのですが、動画を見ている人たちには高校生もいると思います。その若者、特に善通寺市の若者や、一度善通寺市外へ出てしまったけど戻ろうかなと考えている若者に、アピールするとしたら、どういうお話ができますか？

【辻村】

私は市長になった時の公約

で「STEAM 教育の推進」

というのを掲げていました。

STEAM は頭文字で、

Science (サイエンス) 、

Technology (テクノロジー) 、

Engineering (エンジニアリング) 、

Art (アート) 、

Mathematics (マスマティックス) ですね。探究的な教育の中で、理

系的なものやアートみたいなものを取り入れて、問題解決能力を養っていく、

という教育なのですが、これを小中学校でカリキュラムを組んでやっていま

す。

要は、自分で問題を解決していく能力がこれから善通寺市には不可欠な要素

であると考えております。優秀な子はそれなりにやるのですが、勉強がたくさんできる子は、ほぼ善通寺市に帰ってこないんですよね。善通寺市に帰ってきたい人、また善通寺市にいる人が、どのようにこの地域を盛り上げてくれるか

ということを、教育に取り入れたいと考えてやっているわけです。

別に一度善通寺市外に出て、帰ってきてくれても構わないわけですが、その時



に「どこに就職しようか」ではなくて、できればそういう社会課題などを解決できる、それを生業にしようという人間を、育てることができればいいのではないかと考えています。

【内田】

市役所職員の若手採用の時に、辻村市長がもし人事に助言をするなら、どういうことを助言されますか？

【辻村】

最後の面接は私も参加しますが、とにかく優秀さよりやる気と根性が必要じゃないかなという気がしますよね。

歯を食いしばって頑張ってくれる人を私としては採用したい思っています。

【内田】

それは安村学長の学生に対する想いもかなり近いですね。

【安村】

今後さらに考えているのは、先ほどの辻村市長のお考えにもありました、本学は理数系ではありませんので、STEAM のようなことは学科の形成上、難しいのですが、土台教育をしっかりとやって「考える力」、それを学んで数理的な問題解決の方法は統計法でやって、調査をそれに応用して地域振興や観光に結びつけていきます。

本学は 3 年制の専門職短期大学ということで、臨地実務実習という科目があります、3 週間、6 週間、6 週間と、3 回にわたって臨地実務実習をやっています。そのうちの 6 週間分を徹底的に地域振興、観光振興として、土台教育で身につけた「考える力」をもとに、学生が地域に入り込んで地域振興をしていくという臨地実務実習をこれからやっていきたいと思います。先ほどお話しさせていただいたように素晴らしい魅力が普通寺市にあるので、今後お願いして、サポートをいただきながら、地域や観光の振興ということを学生が地域の方と一緒にになって臨地実務実習をやっていける形にできないかと思っています。

【辻村】

ぜひお願ひします。

私もね、2箇所ほど観光に行って感動したことがあって、1箇所が鹿児島県の知覧。武家屋敷があるのですが、そこに行くと雨戸を木の棒を使って収納するのを、おばあちゃんが解説するんですよね。それをものすごく上手に饒舌にやるわけなんです。

もう一つは奈良県の薬師寺の住職さんで、これも面白いんですよね。この 2 人の共通点は、最後に上手に物を売るんですよ。絶対に買わされるんです。それ

が上手なんです。どうやってその魅力を引きつけさせるか、どうやって儲けるか、この2つの要素を兼ね備えたような人材が観光セクションには欲しいなという気がするので、そういう人材を是非とも育成していただきたいと思います。

【内田】

よろしくお願ひします。本学は善通寺市と協定を結ばせていただいておりますので、色々使っていただければと思っております。特に、今日のお話に出たような、観光資源と物語を地域でどう作って、どうアピールして、売り出していくかというあたりを、学生と参加させていただいたて一緒に考えさせていただければと思います。

【内田】

これから観光、地域振興の人材の育成について、安村学長からお話をお願ひいたします。



【安村】

本学は観光専門職短期大学ということで、観光に特化しているのですが、これまでは観光に関連する仕事についての技能や実務を習得していくことが主眼に置かれてきました。しかし、私は大学教育としてどうかな

と最近感じております。

やはり色々な地域の魅力がありますが、辻村市長のお話にもあったように、人口減少がどんどん進んでいって、地域に活気がなくなってしまう。ですが、本来の観光の姿である「地域の光を見る、見せる」というところを、一つの専門職の目玉にして、まさに辻村市長がおっしゃったように、学生が考える、自分の力で生きていく、それを地域と結びつけて、共に創造していく、というのを実現できないかと考えております。

つきましては、それぞれの地域と色々な連携をして、共同でやっていかなければいけない。その時に、辻村市長のお考えのような、特に善通寺市で地域の魅力を生かしてやっていこうという取り組みは、我々にとって、これから教育のまさに「教材」であって、なおかつそこに参加させていただけるということに、私の想いが非常に強くなっていますので、辻村市長にもぜひご理解いた

だけたらと思います。

【辻村】

こちらこそお願いします。

今日はせっかくお越しいただいているので、四角スイカとか、これは大師もち麦という、善通寺市の体にいい雑穀麦のゆるキャラなんですが、このPRに力を入れております。さらにこの大師もち麦の新品種ができて、そういうものを利用してグリーンツーリズムといったことをできないかということも考えておりますので、是非ともお力をいただけたらと思います。

【安村】

メディアにも紹介されて世間でも知れ渡ってきているのではないか。タウンミーティングでも農業の方も、例えばグリーンツーリズムなどを考えて、観光と結びつけて、着地観光ということでやっていこうと、そういう方も多いみたいですね。

【辻村】

善通寺市の場合は色々と規模が小さいので、なかなか自分ではできないので、協力したり、アシストができればと思います。

【内田】

多分そういう魅力的な人材なり、もちろん観光シーンも含めてですけど「上手く世の中に売っていく」という言い方は少し失礼になってしまいますが、上手く魅力をアピールするというのは、若い世代の方が上手いかもしれませんので、期待していただければありがたいと思います。

本日は、企業や地域が求める若者をどう育てていくかということを、この対談では行政のトップの方、企業のトップの方からも色々とお話を伺ってまいりました。本学も是非とも善通寺市のお役に立てるようにと思っておりますのでよろしくお願ひいたします。

本日の対談、どうもありがとうございました。

【辻村・安村】

ありがとうございました。

★★★アフタートーク★★★

——STEAM教育のほかに子供たちに向けて力を入れていることは?——

【辻村】

「合同部活」ですね。中学校が2つあるのですが、なかなかチームスポーツができなくなってきたので、学校は違いますが部活は一つにして、今年から参加するようにしています。

後は、市役所内の図書館も非常に好評なのですが、その隣に「こどもライブラリー」というのも丸善雄松堂さんなどにアウトソーシングしてやってもらっています。非常に嬉しいことに市外の人までたくさん来てくれています。そういった形で子育て世代に本を読む教育に力を入れています。

【安村】

小学校や中学校で郷土の知識とか理解といった特別な授業はありますか？

【辻村】

副読本の「ふるさとの偉人 空海」というのを作りました。小学生の皆さんに勉強していただいています。

【安村】

高校で探究の授業では、やはり郷土を課題にしたような形があるのでしょうか？

【辻村】

最近では探究の授業で、善通寺第一高校と尽誠学園高校が市役所と組んで色々とやってくれて、善通寺市特産のキウイでパフェを作ったり、とかもやってくれています。

——善通寺市をどんな町にしたいですか？——

【辻村】

これはもう「住みみたい町、住み続けたい町」ということですね。住んでいる人が幸せを感じ、赤ちゃんからお年寄りまで幸せを感じ、愛着を感じる、そういう町を目指しています。